

週刊市議会報告

日本共産党

08年7月14日第1050号
【発行】
日本共産党浦安市議団
市役所内控え室(議会棟1階)
& FAX (350)1243

平和大好き
憲法9条は
世界の宝



市議会議員
元木美奈子

入船 4-37-14
355-8526
minamotonton@
jcom.home.ne.jp



市議会議員
井原めぐみ

東野 2-8-13
353-4730
i_megumi@d8.
dion.ne.jp



市議会議員
美勢 麻里

北栄 2-3-16-203
354-9269
m5mise@jcom.
home.ne.jp

庁舎建設 替問題

既存施設を生かし、基金の範囲で新館の増築を

日本共産党



7月3日に公表された
庁舎建設スケジュール

【基本設計プロポーザル】	
募集要項等の配布	7月7日(月)迄
第一次提案書の受付	7月8日(火)~ 7月14日(月)
第一次審査の結果通知	7月30日(水)
第二次提案書の受付	8月27日(水)~ 9月2日(火)
ヒアリング	9月下旬
設計者の決定	9月下旬

【基本設計】平成20年10月~21年3月

【実施設計】平成21年3月~12月

【建設工事】平成22年3月~24年6月

【共用開始】平成24年7月

「チームマイナス6%を標榜す
て建ててわずか34年しか経って
いない建物を壊すのは、資源を大
切にし、地球環境を守ることから
も大きな問題です。」

「悪い建物を長期間使い続ける」
その一方で、エネルギー効率の

現在の庁舎、議会棟、センターは
壊さず、リノベーションで活用を!

「浦安市が現庁舎や議会棟を取
り壊すことが環境破壊になると
の認識はないのか」と質したのに
対し、答弁に立った総務部参事は
「環境に対して負荷を生じさせ
ることになる」と環境破壊につな
がるとの認識を示しました。」

新庁舎建設は市民の多くの疑義をよそに爾々と進め
られています。現在基本設計業務を行う設計者選定作
業に入っており、9月下旬には設計者を決定していく
ことになっています。(左表)
日本共産党は先の6月議会一般質問で、庁舎建設に
ついて、現庁舎の活用を含め、市民に意見を求めた上
で、計画を抜本的に見直すことを求めました。



後期高齢者支援金(年間1万円)スタート! 日本共産党の主張が実現しました

後期高齢者支援臨時給付金については、高齢者の保険料の負担増のみならず、
老年者控除の廃止や介護保険料の段階的引き上げなど、高齢者を取りまく経済
環境の悪化を考慮し、高齢者の生活支援のため、2年間を限度として年1万円
を支給するものです。給付金の支給方法は、口座振込みが原則。

対象者は75歳以上の医療費の窓口負担が1割の方。該当される方が亡くな
られた場合も遺族が申請できます。平成20年度では6千人程度の見込みです。
今月中に市役所から該当される方にはお知らせが届くことになっています。
詳細は高齢者支援課まで(代表)351-1111(内線:73-2120)

との方が長期的な視点で見れば
環境に与える影響は大きいとの
答弁もありました。その弱点を直
裏面に続く

す技術的改修は可能です。日本共産党の調査で改善工事で使い続けた場合と取り壊して建替えた場合のコストや環境影響の比較、シミュレーションは行っていないことが明らかになりました。

当局も地球温暖化防止に国際的責務を果たす立場に立つべきです。安易な取り壊しありき、建替えありきに走ることは百年の計を誤ることにつながります。

質素で使いやすい新館を

人口8万人を想定して建設された現庁舎では期待される庁舎機能を果たせないという点はその通りです。市民に使いやすい、質素で省エネの庁舎機能が基本的に果たせる必要最小限の規模の新館の増築によって、現在の不足分を補うことが必要です。

その際、浦安公園側に渡るイベントができるブリッジ建設など、庁舎機能と直接関係のない大掛かりな複合施設整備は退けるべきです。

基金の範囲内での建設を

基金の範囲内にすべきという

ことは、パブリックコメントに寄せられた多くの意見です。今後の自治体財政運営を真剣に考えれば当然です。

日本共産党が既に事業者の選定が始まっているが、全体事業費を基金の範囲内で質のいいものを提案させるのか」と基金の範囲内に抑えることを強く求めたのに対し、総務部参事は「今後、基本設計、実施設計を行なっていく中で、庁舎の規模や建物仕様などを精査し、事業費の縮減を図ってまいりたい」と、一定の規模や事業費の縮減の方向性を示しました。しかし基金の範囲という上限をしつかり決めていくことには言及しませんでした。

議 棟 建設後大規模改修を一度も行ってない!

議会棟の耐震性や劣化状況、大規模修繕履歴について質したのに対し、「昭和63年の耐震診断の結果、I S値0.66程度あることから、コンクリート強度の劣化等は認められるものの、大規模改修を全く行ってこなかったこと」「議会棟を改修した場合のシミュレーションは行っていないこと」「耐震性は2階の本会議場

の強度が最も低く、3階（録音・録音用の部屋）が一番安全性が高いこと」が明らかになりました。



いつの間にか消えていた保育園併設計画

日本共産党は保育園の需要が多いことから、特に元町地区での待機児解消のためには、庁舎の敷地内での建設も一つの有効な方法であると考えています。

ところが、保育園の併設につきましては、今後庁舎建設から外す方向で検討してまいりたい」「最終的には4月14日の庁内検討委員会においてこういう決定をいたしました」と中村健副市長から「寝耳に水」の答弁がありました。保育園計画中止が公式に発表されたのはこれが初めてです。

問題なのはこの最終決定がされた後に公表された保育計画でも、広報うらやすで発表された「新庁舎建設計画」にも、60人定員の「新庁舎併設保育園が生きたままになっていくこと」です。市民にも議会にも偽りの情報が流されていることは重大です。

小手先の規模縮小ではなく民意を反映した見直しを!

パブリックコメントで107人中101人の方が現計画に反対や疑義、又は条件つき賛成という結果を重く見るべきです。小手先の保育園を削るなどの規模縮小や若干の事業費削減だけで市民意見を取り入れたとしての見切り発車は許されません。

民意を反映した抜本的な計画の見直しを強く求めました。

市民みんなが大切にしたい庁舎

これからの時代、建物を長く使っていくことが大切です。それには市民が愛着の持てる建物にすることが必要です。取り壊されるときには保存運動が起こるような建物にしていく、それがまちづくりを通しての市民自治と文化を高めていくことではないでしょうか。

そこに暮らすひとびとの記憶に残り続ける街並み、建物であれ、緑や樹木であれ、永い時をかけて育んできた風景を大切にできる市政が今求められています。